

遊びを学ぶに

～環境問題啓発ボードゲームの制作と普及～

団体名：Liberty



作成しているボードゲーム

Libertyの事業アイデア

<事業アイデア>

私たちは地球環境の激変により様々な環境問題に対し、**遊びを学びに**をコンセプトに**未来を担う子供たち**に対して、遊びながら興味を持ってもらい、そして**学べるボードゲーム**の制作企画をしている。

<背景>

- ・環境問題を意識する上で、**日常的な自然体験は子供の生物多様性保全意識を向上させる**（花木啓祐，2016）。
- ・昨今のコロナ禍により、様々な実体験環境イベントは、縮小されるか中止されている。このような環境だかこそ日常的（家族のおうち時間）に楽しみながら環境問題を意識できうるボードゲームに着目。
- ・ボードゲームは、ビデオゲームに見られるような明確なジャンルの確立は行われておらず、このため市場における宣伝は特定の商品を中心にしたものが多い。
- ・ジャンルとしてのムーブメントを引き起こすことが難しい状況にある。日本では、一部に愛好者が増えているようであるが、ゲーム市場全体で認められるほどの大きなムーブメントにはなっていない。
- ・近年、**教育におけるボードゲームの活用の有効性**が議論されるようになり、Sustainable World BOARDGAMEなど一部で大きな成果が上がり、**遊びとしてではなく、学びのツールとしてのボードゲームの重要性**が評価を受けている（重野直斗，2021）。

企画提案内容

①現在の企画内容

- ・環境シリアスボードゲームの制作・販売予定
 - （例）「How to」ゴミ分別ボードゲーム
 - プレイ人数2~6人 プレイ時間5~10分 対象年齢5歳以上 価格2000円 内容物カード52枚、説明書1部
 - ゴミの日カードに書かれたゴミカードを特殊カードを駆使し、手札をすべてなくした順に勝利
 - 2021年11月下旬 販売予定（クリスマスやお正月需要を意識）
- ・環境や自然、ボードゲームの周知のための活動（オンラインイベント等を企画中）
 - YouTube活動 静岡区役所環境局HP（しぜんたんけんてちょう）掲載 清水市民活動センターと連携 あさはた緑地と連携
- ・ゴミ拾い参加（河川アドプトプログラム・みほしるべ清掃活動）
- ・サステイナブルなアパレルブランド展開準備中（Hold hands）

②今後の活動目標

- ・自然環境・ボードゲームイベント
- ・環境をテーマとしたボードゲームカフェ・バーを静岡で開業
- ・個人事業から法人化
- ・環境を商品とした事業展開



環境教育ボードゲームのメリット・デメリット

メリット

①失敗から学べる

→ゲームは「失敗してもやり直しがきく」という特性をもっている。失敗＝悪ではなく、失敗＝新たな学びという思考回路が育てられる。

②複雑な概念を理解できる

→ジャンケンを文字に起こすと難しいが、実際にやってみると簡単に理解できる。同じようにボードゲームは複雑そうに見えたトピックを「誰にでもわかる形で提供されているコミュニケーションツール」である。

③学習活動の意欲を高めやすい

→学習よりも面白い遊びというイメージが先行するため、意欲的な集中力が増す。（柳町真子，2020）

④平等に意見を発することができる

→オンラインゲームと違い、ボードゲームは「必ず」一緒に遊ぶプレイヤーが複数人存在する。ほかの人の思考を読み、コミュニケーションを取りながらプレイする際、毎ターン自分の意思を示しながらゲームに参加できることから「各プレイヤーが、とあるトピックに対して常に考え、アウトプットすることができる。」

環境教育ボードゲームのメリット・デメリット

デメリット

①一人できない

→一人用のボードゲームもあるが誰かと遊ぶことが前提で作られているものが殆どである。

②教育に取り上げづらい

→授業時間やカリキュラムによる制度を受けやすく、ゲームに勝つことが優先され学習が疎かにされやすい。また、教育関係者から娯楽ゲームとの違いを理解されにくい。

〈考察〉

・教育関係者ゲームと名がつくものに対して、非常に悪い印象を持っている方が一定数いる。しかし、アメリカやヨーロッパでは、**ゲームを用いた教育方法が学問として認められている**。（有田隆也，2011）

・日本では放課後デイサービスや課外授業、学童保育、ワークショップなどからボードゲームを用いた教育方法を展開していくことで受け入れやすくなるだろう。

・グループワークとしてボードゲームを行うことは、コロナ禍により三密を防ぐため家族で行うことが推奨だと考える。

ボードゲームを教育に活用した事例

①Meet the challenge 「海洋貿易ボードゲーム」

→水産庁の方が多く集まる学会で用いられ、各国の官庁職員がボードゲームを通して最適な貿易ルートや予算などを話し合う場として活用される。

②病原菌感染対策ボードゲーム

→ボードゲームを用いると「モチベーションの維持・動機付け」に長所を持ち、通常の講義では、「知識の包括的な取得」に長所を持つとされ、どちらか一方ではなく、両方とも用いる学習スタイルが良いとされている。

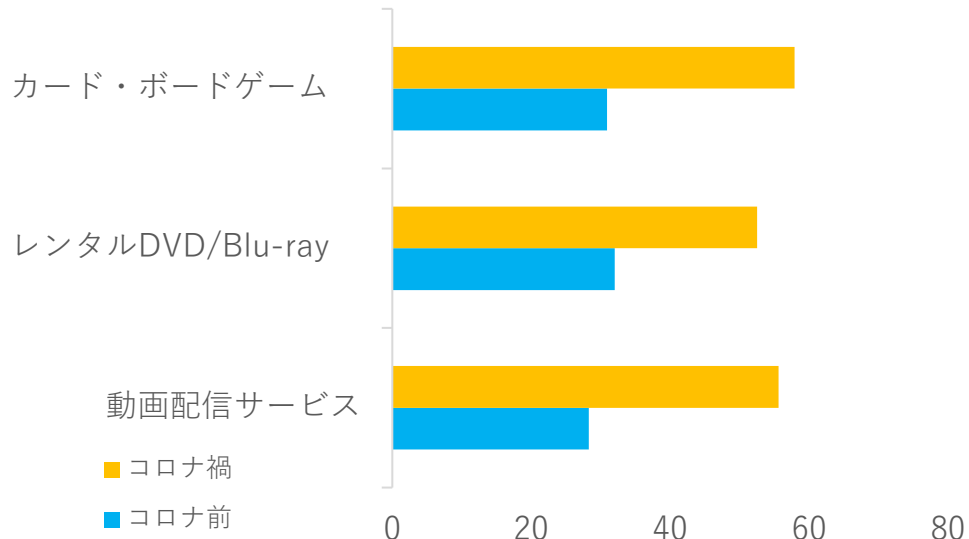
③Sustainable World BOARDGAME 「SDG s 学習ボードゲーム」

→取り組む内容、またそれに伴う経済活動の変化や取り組むべきことをボードゲームを通して学べるよう設計されている。

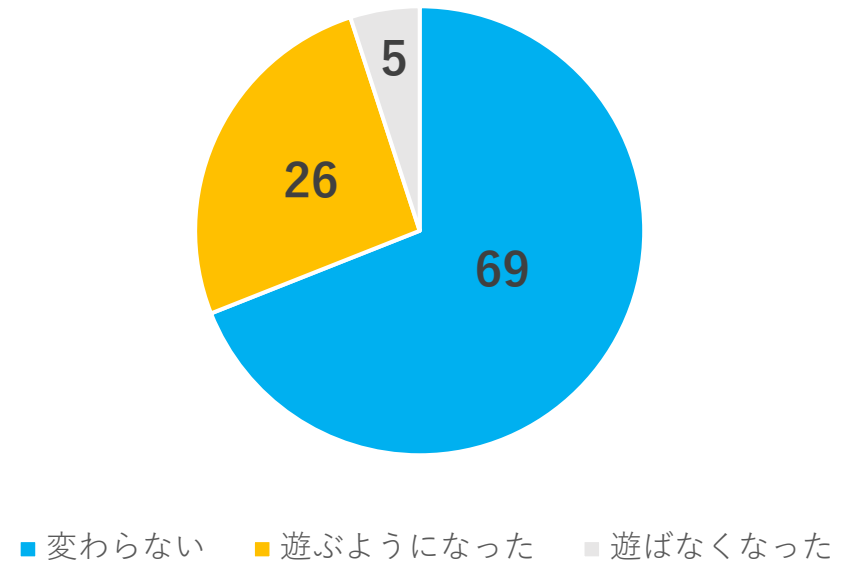


ボードゲームの市場調査

コロナ禍で親子で楽しんだ時間円満度



コロナ禍でカード・ボードゲームで遊ぶようになったか



- ・ボードゲームイベント「ゲームマーケット」の来場者数は**10年間で10倍**に増加した。
- ・TSUTAYAでは2020年4～6月のボードゲーム売り上げが前年の同期比**平均454%**増加し、コロナ禍での自粛期間において**30～40代女性が購買層**の中心となった。

コロナ禍での環境×教育×ボードゲーム

① コロナ禍での環境意識

→国際環境NGO団体グリーンピースが実施した環境問題意識調査では「コロナ流行前と比べて環境問題や環境に配慮した持続可能な暮らしに、より関心を持った」と回答した人が回答者数の**半数以上**であった。環境問題をより意識、配慮をしている世代が**20~40代**。（小田奈緒美, 2007）また、女性のほうが環境問題に関心がある。（木本喜美子, 1994）

② コロナ禍での教育の変化

→緊急事態宣言に伴い三密を防ぐため、教育はオンライン化・デジタル化が加速した。それにより、自宅にいる時間やオンライン授業における受講環境や疲労によりストレスを感じている。（越智徹, 2021）

③ コロナ禍でのボードゲームの変化

→前文で述べた通り、ボードゲームの売り上げや家族の円満度がコロナ前と比べ上昇している。また購買層も**30~40代女性**が中心となり、**ファミリー向けの手軽に遊びやすいボードゲーム**が人気となっている。

環境×教育×ボードゲームの先見性

・環境、教育、ボードゲームはどれもコロナ禍で変化した。しかし、共通するものが**子供と家庭を持っている30~40代女性**だ。「教育に関心があり、遊びをするならば学べるものを欲している。コロナで家族との時間が増え、家の中で家族と遊べるゲームがしたい。」このような層をターゲットとし、**ファミリー向けの環境教育ボードゲーム**が流行るのではないかと考えた。

・日本の流行りは海外から輸入される場合が多く、コロナ禍で爆発的に売り上げたボードゲームもヨーロッパやアメリカと比べ、市場規模は小さい。そのため、これからボードゲームを行う人口はファミリー向けの**手軽なボードゲーム**を中心に伸びるだろう。

・教育ボードゲームはボードゲーム市場よりも市場規模が非常に小さいため、私たちのボードゲームが広く受け入れられたならば先駆者となるだろう。

エピローグと引用文献

マイクロプラスチックなどの人工物は、全生物の食物連鎖に悪影響を与えている。また、大気汚染は気候変動を引き起こし、世界規模で未曾有の災害をもたらしている。

環境問題の事後的解決には科学技術の進歩が必要である。しかし、人間が**素直に心から環境に対して、高い意識を持つ**こと以外、真の解決はできないだろう。

真の解決のためには、子供の頃から環境の大切さを親から子へ、そしてその子へと「バトン」を引き継いで行かなければならない。

私たちはそうした「バトン」になりたい。それには難しい教育本ではなく、**子供から大人まで楽しみながら学ぶことが**記憶の定着となり、楽しい記憶として刻まれると考えている。

トランプの様に**必ず家や学校などに、この環境ボードゲームがある**。私たちは誰もが環境問題を身近に感じ、環境を守る世界を作りたい。

花木 啓祐 (2016) : 日常的な自然体験は子供の生物多様性保全意識を向上させる - 身の回りの自然環境が持つ教育的価値を科学的に検証.環境調査.公衆衛生学の国際ジャーナル.

重野直斗 (2021) : ボードゲームの類型化によるマーケット・イノベーションにむけての考察.東海大学卒業論文.

柳町真子 (2020) : ボードゲームがもたらす効果の分析と一般化のための検討19 - p. 361-368.

有田隆也 (2011) : ドイツボードゲームの教育利用の試み:一考える喜びを知り生きる力に結びつける一. コンピュータ&エデュケーション, 31 (0) : 34-39.

小田奈緒美 (2007) : 地球環境問題に対する意識と環境配慮行動に及ぼす年齢、性差の影響 : 名古屋地区におけるアンケート調査から.人間と生活環境 14(1), 25-32.

木本喜美子 (1994) : 女性と環境行動 (都民の水環境意識調査報告).総合都市研究 (54), p89-101.

越智徹 (2021) : 初年度情報リテラシー教育のオンライン授業における受講環境と疲労の調査.情報教育シンポジウム論文集, 61-68.